

論文題名 親会社・支配株主と持合が企業業績に与える影響

要旨

わが国資本市場の特徴に親子上場と持合がある。子会社は全上場企業の 11% である。筆頭株主の株式所有割合が企業業績 (ROA) にいかなる影響を与えているか、あるいは自社の他社株所有でみた持合比率が企業業績に与える効果を全上場企業を対象に検証する。期間は 1981 ~ 2009 年である。

子会社株式の 50% 以上を所有する親会社は、ガバナンスが機能し子会社の業績を向上させる可能性がある。反面、親会社にとって都合の良い人事政策を展開することで子会社の業績は低迷するかもしれない。持合は経営者のエンブレチメント効果で企業の業績を低下させる可能性がある。この検証が本研究の目的である。

実証によれば上場子会社の業績は、そうでない企業を下回り、持合の上昇も企業業績を低下させている。